

動物に配慮したふれあいがふれあい者に与える心理的生理的影響について

土田あさみ*・内山和聡・小泉 榮

東京農業大学農学部

Psychological and physiological effects of animal-considerable interaction on humans

TSUCHIDA Asami*, UCHIYAMA Kazutoshi, KOIZUMI Raku

Tokyo University of Agriculture

目的

近年動物福祉の意識の高まりを受けて、動物に配慮したふれあい方を模索する動きがみられる。テンジクネズミ (*Cavia porcellus*) は温順で扱いやすいため、動物の扱いに慣れていない人でも安心してふれあうことができる。しかし、テンジクネズミは元来臆病で敏感であり、ふれあいによるストレス (Gut et al 2018; Kase et al 2021) に対して配慮が必要である。そこで、Gut et al (2018) の方法を参考に、テンジクネズミと直接ふれあわない手法を試作し、ふれあい者への影響について検討した。

方法

本実験は農学部学生 23 名 (男性 12 名, 女性 11 名, 平均年齢 20.5 ± 標準偏差 1.0) を対象者として、東京農業大学の人を対象とする実験・調査等に関する委員会 (承認番号 2236) および動物実験委員会 (承認番号 2027047) の承認をそれぞれ得て行われた。実験参加者は予め 5 分間の単純計算を行い、その後動物とのふれあい (実験群: 17 名, 男性 9 名, 女性 8 名) あるいは絵本の黙読 (対照群: 6 名, 男性 3 名, 女性 3 名) を 15 分間行った。参加者の影響として、計算の前 (Pre) と後 (Post1), そしてふれあいあるいは絵本黙読の後 (Post2) に、二次元気分尺度 (Two-Dimensional Mood Scale-Short Term: TDMS), 唾液コルチゾル濃度 (Salivary Cortisol ELISA Kit), および唾液アミラーゼ活性 (唾液アミラーゼモニター) を測定した。ふれあい 10 分経過時にふれあい対象の印象評価を行った。対照群も同様に各測定を行った。実験群のふれあい方法は、45 × 45 × 25 cm の木製巢

箱を容れた 90 × 90 × 30 cm の箱にテンジクネズミ 3 頭を放し、箱の一端を開閉式にしてその部分でテンジクネズミに牧草を与える方式とした (写真)。この手法により、テンジクネズミは人とかわることを自ら選択することが可能となった。



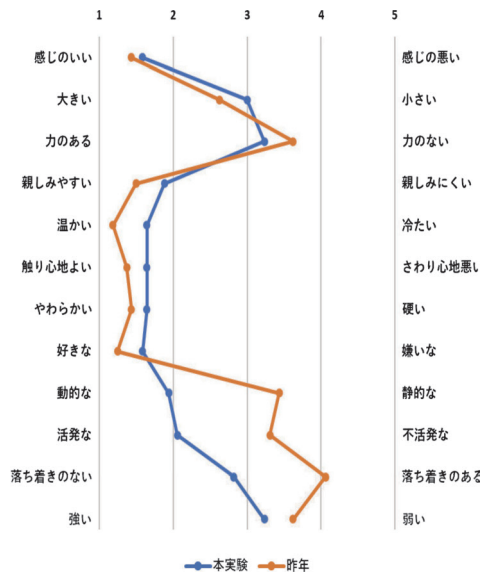
結果

TDMS では実験群の安定度および快適度がふれあい後有意に上昇した (安定度 $\chi^2(2) = 22.16$, $p < .001$; 快適度 $\chi^2(2) = 18.11$, $p < 0.001$)。唾液アミラーゼ活性は実験群対照群のいずれにも有意な変化がみられなかったが、唾液コルチゾル濃度は対照群で絵本の黙読後に有意に減少した ($\chi^2(2) = 8.10$, $p < 0.05$)。実験群の印象評価では「動的な」「活発な」「落ち着きのない」という動きを現わす評価が、昨年度の評価よりも高い値を示した (右図)。

考察

動物とのふれあいは動物と相互のやりとりが魅力になるが、ふれあい方法によっては動物は身動きできず人側の一方的な関与にとどまることがある。そこで今回我々は動物が人とのふれあいを選択できる手法を試用してその効果について検討した。その結果、テンジ

* 連絡先: a3tuschi@nodai.ac.jp



クネズミが膝の上に乗らないふれあい方法においても、昨年同様動物とのふれあい後にふれあい者の気分尺度は正の効果を示した。また、今回のふれあい方法は、膝の上でふれあう方法に比べて、テンジクネズミの活発な動きをふれあい者に印象付けることが明らかになった。したがって、テンジクネズミとのふれあ

いはふれあい方法によってふれあい者にもたらす印象に違いがあることが示唆された。

謝辞

本実験にご協力くださった東京農業大学農学部 of 学生の皆さまに厚く御礼申し上げます。

利益相反

本実験に関する利益相反はない。

引用・参考文献

- Gut W, Crump L, Zinsstag J, Hattendorf J, Hediger K (2018) The effect of human interaction on guinea pig behavior in animal-assisted therapy. *Journal of Veterinary Behavior* 25, 56-64.
- Kase C, Terashi K, Morioka A, Toyoda H, Uetake K. (2021) Short-term effects of petting zoos on the behavioural and salivary cortisol of guinea pigs. *Animal Behaviour and Management*. 57, 137-145.
- 土田あさみ・白石れな・松井悠花・阿部建太・川嶋 舟. (2024) 質感を向上させたぬいぐるみおよび本物とのふれあいにおける人への心理面および生理面への影響について. *動物介在教育・療法学雑誌* 15, 15-16.